会　　議　　録

会議の名称	令和６年度第３回弘前市健康づくり推進審議会
開催年月日	令和７年２月１８日（火）
開始・終了時刻	午後１時３０分から午後２時４５分まで
開催場所	弘前総合保健センター４階　視聴覚室
議長等の氏名	弘前市健康づくり推進審議会　会長　井原一成
出席者 （１２名）	学識経験のある者：委員　井原一成　　委員　古川照美 保健・医療関係者：委員　柿﨑良樹　　委員　石岡隆弘 委員　磯木雄之輔 公共的団体の推薦：委員　福島龍之　　委員　斎藤明子 委員　高橋ゆみ子　委員　成田津江 委員　藪谷育男　　委員　三上美知子 公募委員　　：委員　小磯　明
欠席者 （３名）	保健・医療関係者：委員　佐藤史枝 関係行政機関の職員：委員　齋藤和子 公募委員　　：委員　島田之恵
事務局職員の職・氏名 （１５名）	健康こども部長：佐伯尚幸、健康増進課長：川田哲也 健康増進課参事兼統括保健師：佐藤美加 健康増進課長補佐：工藤孝幸、三上淨子 健康増進課主幹：澤居吏香子、佐藤康行、今敏行 健康増進課総括主査：長尾厚子、尾崎弘子、進藤明良 健康増進課主任管理栄養士：小山内さとみ 健康増進課主査：對馬佳津子、高橋信人 会計年度任用職員：成田美奈子
会議の議題	１　弘前市健康増進計画「第３次健康ひろさき２１」評価指標・目標値決定にあたっての考え方について（説明） ２　その他 (1) 令和７年度予算案ベース主要事業について (2) その他
会議結果	下記会議内容に記載のとおり
会議資料の名称	・令和６年度第３回弘前市健康づくり推進審議会次第 ・弘前市健康づくり推進審議会委員名簿 ・弘前市健康増進計画「第３次健康ひろさき２１」評価指標・目標値決定にあたっての考え方【資料】 ・弘前市健康増進計画「健康ひろさき２１（第２次）改定版」

	評価指標の進捗シート【参考】 ・「健康ひろさき２１（第２次）改定版」における取組【追加資料】 ・令和７年度予算案ベース主要事業
会議内容 （発言者、発言内容、審議経過 、結論等）	【次第】 １　開会 ２　委嘱状交付 ３　会長挨拶 ４　案件 (1) 弘前市健康増進計画「第３次健康ひろさき２１」評価指標・目標値決定にあたっての考え方について（説明） (2) その他 ア　令和７年度予算案ベース主要事業について（説明） イ　その他 ５　弘前市健康こども部長挨拶 ６　閉会 ――――――――――――――――――――――――――――― **【１　開会】** **【２　委嘱状交付】** **【３　会長挨拶】** **【４　案件】** **(1) 弘前市健康増進計画「第３次健康ひろさき２１」評価指標・目標値決定にあたっての考え方について** （事務局） 資料・参考・追加資料について説明 （委員） 資料の２ページ目の一番下、１(1)６「歯・口腔の健康」の②「う蝕のない１０代の割合（１２歳児）」の項目について。う蝕の有無の指標に変更するということで、第２次改定版では１２歳児については「一人平均う歯数」を評価指標にしていた。市では、昨年度からフッ化物洗口を小学生で行っているが、その効果を評価する指標としては、やはり虫歯の数が必要になってくると思うので、う歯の数の調査も引き続き行っていただきたいと思うところ。

	それからもう１つは、同じ資料の３ページ目１(2)１「がん」①「がん検診の受診率」の項目について、「青森県の目標として６０％を目指すとしていることから、市としての増加率を年０．３％などとする」としているが、これでは計画期間１２年間で３．６％しか増えない計算。ベース値が６０％に達するためには、毎年かかるかわからない。この場合の考え方について伺いたい。 （事務局） この考え方に記載している青森県の受診率６０％には、市町村実施事業のみならず、職域などの検診受診者も含めてのものであり、当市でもこれらを含めると受診率はもう少し上がっていると考えているが、あくまで市で把握できる数値が、国保加入者を含めた市の実施するがん検診を受診した方だけになるので、そのペースからいけば、この目標、一応第３次でも設定した目標値プラスこちらの方で把握できていない職域の検診の分も含めると、６０％になるのではないかと考え、設定したところ。 （委員） そういうことではなく、毎年０．３％の増加を目指すというその目標値が、それでは不十分なのではないかということを聞いている。 （事務局） 目標値に対して年０．３％というのは確かに不足に思うところではあるが。これまでのがん検診の受診率の推移なども含めて、０．３％ないし０．４％をベースに、着実に積み上げていくところから始めることが必要なのではないかと考えたところ。 （委員） 個人的には、志が余りにも低いのではないかと感じた。 （会長） それから、フッ化物洗口に関係しての評価指標の取り方についての回答も。 （事務局） フッ化物洗口については、先日の歯科医師会との打合せにおいても、事業の評価をしっかり行っていくようにとの

	ご助言をいただき、フッ化物洗口を受けた子どもたちがどうなっていくかというところを、きちんと評価していくこととしている。 （委員） 　この虫歯の評価に関しては、やはり虫歯を持っている人の数と実際の虫歯の本数で評価している例もあるので、ぜひ調査していただきたいと思ったところ。 （会長） 　ただ今の事務局の説明によると、歯科医師会と連携してう歯の本数も把握していくということか。歯科医師会の助言をお願いしたい。 （委員） 　歯科医師会の健診、学校健診等、そういうのを含めて検査の結果が出てくる。それは全部、歯数とう蝕、り患した歯数と、全部統計は出ているので、これからも多分その方向は変わらないと思う。また、フッ化物洗口の効果については、結果が出てくるまでにはあと３、４年はかかるものと思っている。 （会長） 　１つ戻って、がん検診の受診率の目標が少し志が低いのではないかという委員の指摘は私も全く同感で、委員の皆さんもそう簡単なものではないと思っての承認だったと思うが、今改めて、計画の策定に携わった者として少し反省もしているところである。 　この参考資料を見ると、なかなかやはり受診率が上がってきていないという現実もあって、その辺りの数字になったのだろうと思い起こしている。もう少し上げていくためにどんな工夫をしようとしているのか説明いただきたい。 （事務局） 　まず、がん検診の子宮乳がん検診に関しては、２年に１回受診できるということで、今までは偶数年齢でしか受診できなかったものを、２年の間に１回できるようにするということで、まずは受診の機会を増やすということ。あと、昨年度対象で未受診の方に対して、資格証明書を発行して、今年度も奇数の年齢であっても受けられますよということで、個人通知を出している。

	それから、国が公表している検診受診率のデータは、対象が比較的若い世代に限定されており、当市における当該世代の受診率の現状を踏まえると、６０％の目標値の達成には一定の年数を要すると考えられるため、小刻みな増加率で設定したところ。やはり若い年齢の世代にアプローチできるように、ＳＮＳとかもう少し工夫して受診勧奨をしていきたいと考えている。しかしながら、効果的にこれをすればというのがまだ試行錯誤しながら検討しているところなので、逆にこのようなところにアプローチをすれば、もう少しいいんじゃないかというアイディアとかをいただけたら大変ありがたい。 （会長） 今の事務局からの問いかけに対して、委員の皆様いかがか。今でなくても何か思いついたら、市の方に知らせていただくということでお願いしたい。 （委員） 以前にも話したことになるが、まず、厚生労働省で検診の受診率を上げるために情報提供している先進事例を市でも取り入れる。ほかには、大分以前になるが、佐賀県のＢ型肝炎の人たちが多いということで講演をいただいたときに、受診への関心レベルに合わせて何種類かに分けて対応する勧奨方法が必要なんだというような講演を聞いたことがあり、確かにその通りだなと思ったところ。あともう１つは、テレビのコマーシャルである。間隔を決めて、テレビでコマーシャルを出したというのも非常に有効だったという話もあった。 あとは、今先ほど話が出たＳＮＳを使って取り組むというのは、もうすでに行っている自治体がたくさんあるので、そのようなことも考えていけば良いのではないかと思うところ。 （会長） 事務局いかがか。 （事務局） まずは、どこからできるかを検討していきたい。 （会長）

	ただ今のは具体的な提言と考える。市の方ではぜひ参考にしてほしい。 他の点についてはいかがか。 （委員） この第３次計画の中に、ＱＯＬ健診に関しての記載はあるか。様々な対象や場所、内容で行っているので、そこから効果など得られるデータがあるのではないかと思ったところ。 （事務局） 「第３次健康ひろさき２１」の冊子の５５ページ、「社会環境の質の向上」の中の「自然に健康になれる環境づくり」、「行政の取組」のところに、ＱＯＬ健診の普及を図るということで掲載している。ＱＯＬ健診を受けることで、健康に関心がない方も自然と健康に関心が向くということでは、ここの項目に位置付けている。 （委員） 普及を図るというのはわかるが、何か数値的なものを、健康増進の何か指標みたいなものを取られた方が、きっといいと思う。 結構予算をかけて実施していくものだと思うので、例えば意識の変容であれば意識のところを何かデータで取っていくとか、ロコモ予防とか何かいろいろなものやられていると思うので、その辺の数値的なものも少し入れて、実際普及していく、やりました、その結果こうでしたというのを、やはり目標値も出して合わせて考えていったほうが良いのではないかと思ったところ。 （事務局） ＱＯＬ健診を受診した方にアンケート調査を実施しているので、数字的なものを拾えると考えている。今後、毎年の進捗状況を示す際に、成果やアンケートの集計なりを盛り込む形で検討したい。 （会長） では、そのアンケートの集計結果を楽しみにしている。 他にいかがか。 （委員）

	市は大分昔から健康都市として、いろんなことをずっとやってきていると思う。でも、意外に成果が上がっていないと思っている。 これはなぜか。 昔、長野県があれだけ県を挙げてやってきて、それで大分相当上の方に上がって、成果が上がった。 なぜ弘前、青森県は、その成果が上がらないのか、その根本の原因というのを、もう少し突き詰めて考えなければならないのではないかと思っている。なぜ健診（検診）をいくらＰＲしても来てくれないのか。そこが一番根本的な問題だと思うので、もう少し根本的に考えていただきたい。男性が特に検診に来ない、高血圧が多い、しょっぱいものが好き、お酒が好き。青森県の男性は死んでもいいからおいしいもの食べたいなどと言う人もいるし、やはりそういう根本的な問題、自分が長生きすればどういうメリットがあって世の中のためになるんだということも広報しなければならないし、そのようなもっと人の気持ちの中に訴える価値があるのではないかと思う。このＱＯＬ健診もそうだが。健康になればいいことがあると思えるような、いろんな試みがあれば良いと思っている。 本当に自分たちが健康になりたければどうすればいいのかということを、自分たちで考えられるような仕組みがあれば、こういう数字だけではきっと見えないようなものが本当はあるんだろうなということを、すごく私はいつも思っている。 （会長） 重要な視点だと思う。根本的にということで、市民一人一人の気持ちを変えていくようなところが必要なのではないかということだと思う。 これは少し難しい質問かもしれないが、事務局何か一言お願いする。 （事務局） 市でも様々な健診（検診）の啓発などを行っている中で、例えば中路先生の講演では、短命県返上と言って何年も経つけど、いろいろやってもなかなかすぐ結果が出るものではないけれども、地道にやっていくしかないということであった。 そこで、即時性のあるすぐに結果が分かってすぐに自分の生活の改善、生活の仕方をまた組み立てる意識付けのた

	めに開発したのが「ＱＯＬ健診」ということで、これをまず肝に、核として普及させて、一人一人の意識向上を図っていく、ということを中路先生は大事にされている。 　そのようなことから、ＱＯＬ健診の普及推進ということで、市としても、月２回ヒロロで行っているほかに、やはり働き盛り世代にてこ入れすることが先生も大事だと話されているので、それもあって企業の依頼を受けて職員がチームを組んで出向いていって、そこで測定して結果説明してなおかつ保健師や看護師が、生活習慣改善のアドバイスをするという事業を始めているところである。このような取組を来年度も実施して、健康づくりの意識向上へ結びつけていきたいと考えている。 （会長） 　健康づくりは、何か魔法のようにぱっと変わるものではいので、やはり地道に少しずつやっていくことだと思う。 　ＱＯＬ健診は、その参加者の考え方みたいなところにも影響を与えるのかなということで、期待していきたいと思っている。 　他にいかがか。 （委員） 　子どもに関する質問で、１番の栄養・食生活の中の「⑨朝食を欠食する子どもの割合」という項目について、目標値は０％にするとなっているが、子どもが朝食を欠食するのはどのような原因が考えられるのか、市として把握しているのかどうか。それから、それに対して市としてどのような取組をしているのかについて、伺いたい。 　例えば、民間ではこども食堂など様々な取組をされているところもあるように聞いているが、市としてはどういう取組をしているのかということを伺いたい。 （事務局） 　原因については、調査結果など把握しているものはないが、一般的には生活習慣の乱れ、遅い時間に眠って起きるのも遅くなる、夜遅く間食をする、などが朝食を食べない原因ではないかと言われている。したがって、朝食を食べるようにするという取組よりも、規則正しく、早寝早起きで間食も減らすという肥満予防と同じような方向で取組を進めて、早く起きて朝食もちゃんと美味しく食べるというように持っていくという取組を行っている。

	先ほども説明したが、子どもの頃からの望ましい食習慣の定着ということで、肥満予防と一緒に、幼児期からの生活習慣の乱れを正すための健康教育や、１歳半・３歳児健診で幼児食の講話や、規則正しい食生活を送るという指導を実施しているところ。 また、こども食堂については、民間団体が市内の数ヶ所で行っている。本計画は健康づくりを主体としており掲載していないが、しっかりと福祉の立場で実施されている。 （会長） 朝食の問題も、社会経済的な問題があるのではないのかという示唆だと思うので、ぜひそのあたりも考慮しながら、健康づくりに結びつけていただきたい。 他にいかがか。 それでは、意見も出尽くしたようなので、案件１を終了する。 **（２）その他** （事務局） 「令和７年度予算案ベース主要事業」の資料を説明 （委員） 次世代の健康づくり推進事業のところ、子どもの肥満の実態に合わせた食をはじめとした個別の支援については、どういう形で行うのか。 （事務局） １歳６ヶ月健診・３歳児健診で、肥満傾向のある幼児に、個別支援として管理栄養士による保健指導しており、その後も継続して保健指導しているので、そこをまず充実していくこととしている。 （委員） 今伺ったのは、幼児期だけでなく、小学校に入ってからも指導が必要と考えているところ。現実には、小学校の段階でも肥満度が非常に高くなっているという問題もかなり出てきている。学校の健診で肥満度も測っているので、学校保健の方とも連携していく必要があると考えている。今の子どもたちは、部活とか入らないで、家に帰ればゲーム

	だけやって自分の座った場所から動かないという現状もあり、保護者が悩んでいるということも聞いている。 （事務局） 　指摘のとおり、しっかり連携して取り組めるようにしていきたいと考えている。 （委員） 　次世代の健康づくりで、幼児期の肥満予防ということで一言。 　幼児の肥満の原因として、妊婦の低体重や喫煙が非常に関係しているということが言われており、いわゆる飢餓遺伝子が発現し、それが栄養を蓄えろと命令する遺伝子なので、どうしても幼児期に必要以上に食べるとか、そういうような遺伝的なものがもうすでに妊婦の段階で決まってくるので、この低体重や喫煙についての母子手帳での記載に着目して、何か対策が出来れば良いのではないかと考えているところ。そのように、母子手帳を利用して取り組むと比較的、糸口がつかめるのではないかというように感じている。 （会長） 　すごく大事な提案だと思うが、事務局いかがか。 （事務局） 　妊娠の窓口指導のところで、妊娠届け出時の保健指導等をしているところに情報提供して、更なる対策を考えていきたい。 （委員） 　ＱＯＬ健診を地域や企業で行う場合、無料でできるのか。 （事務局） 　当市のＱＯＬ健診は無料で実施している。 （委員） 　無料であれば利用しやすいと思うので、町会連合会の方と連携して、たくさんの地域でやれるように、企業はやっていると思うので、町会連合会の方でもできるように、たくさんお知らせしたら良いと思ったところ。

	（会長） 　事務局よろしくお願いする。 （会長） 　その他いかがか。 　他にないようなので、これで本日の議事を終了とする。 **【５　弘前市健康こども部長挨拶】** **【６　閉会】**
その他必要事項	会議は公開